

事業報告書

事業名 みんなで守る 子どもの安心

～子どもの命と心を守るために、いま、おとなに出来ること～

CAP おとなワークショップ in オンライン



講座の内容から

教職員ワークで配布したテキスト

- 1 実施団体 NPO 法人青梅こども未来 CAP プラム
- 2 担当課 教育委員会 教育指導担当主幹・教育指導主事
市民安全部 市民安全課
- 3 実施時期 教職員向けおとなワークショップ
8月4日 10～12時
地域おとな向けワークショップ
11月10日 10時～11時30分
11月20日 19時～20時30分
11月20日 21時～22時30分
- 4 参加者 青梅市内の小中学校教職員 15アクセス
青梅市内の子どもに関わる市民 71アクセス
(1アクセス副数名の視聴ありの為此の標記)
- 5 実施場所 コミュニティテラスみらい館プラスからオンライン配信
- 6 事業の目的 子ども達が安心して成長できる青梅を実現するため、暴力防止・人権教育プログラムである「CAP おとなワークショップ」を実施し、「子どもの力を信じ、話を聴き、何ができるかを一緒に考えてくれるおとな」の大切さを啓発し、また子どもたちを守ることで出来る大人たちのいる環境を醸成する。
- 7 役割分担
 - ・団体の役割
配信の為に機器準備、契約

広報活動（チラシ作成、印刷、配布、各種 SNS や多摩ケーブル等での周知活動）
申し込みの受付対応（メールで受け付け、URL 等の送付）、参加者への連絡
教職員ワークテキスト購入配布、アンケートのまとめと考察報告書の作成

• 担当課の役割

教育委員会から、各学校、教職員への参加推奨、児童生徒の家庭への周知
市民安全部から、各地域と人権擁護に携わる方々への周知及び参加推奨
市内の関係各所にポスター、チラシの掲示、市の SNS 発信
サテライト会場の手配及び当日の運営

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

参加者へのアンケートから、分かったこととして、学校内及び、地域
保護者社会全体として「暴力」についての共通認識が必要であるとい
うことに気づいていただけた。子ども達の話をお聴くことの重要さを感じ
ていただき、どの立場（保護者、先生、地域のおとな）のかたにも
出来ることがあることを知ることで、青梅の子ども達に寄り添うこと
の出来るおとなが増えた。また、最後に、教育委員会と参加いただいた
先生方や担当課の皆さまにお届けした「アンケート結果と考察」を
まとめた報告書から、この講座の有効性と必要性をご理解いただける
ことと思う。

9 目標達成

事業の目標：「CAP プログラムおとなワークショップ」で子どもを暴
力から守るための CAP プログラムの理念「エンパワ
メント・人権意識・コミュニティ」の大切さと、実際ど
うすればいいのかを学んで理解してもらおう。

目標の達成具合：アンケート結果から、ほとんどの参加者の方から、
暴力が何か、人権意識やおとなが出来ることなどへの
コンセンサスを得ることが出来た。学んだことを、
今後の生活に活かしていきたいという感想も多か
った。惜しむらくはもう少し多くの方に参加して
いただきたかった。

10 事業の実施内容

- ・教職員おとなワークショップ

8/4(水)10時～12時

オンライン（Zoom）での講座。事前に、CAP センタージャパン監修の教職員ワーク専用のテキストを配布し、それに沿った形での講義。普段オンラインツールを活用している先生方なので、機器の操作も可能なことからブレイクアウトルームなどを利用しての、傾聴の体験などもしていただいた。

- ・地域おとなワークショップ

11/10(水)10時～11時30分

11/20(土)19時～20時30分

この2回については、オンライン（Zoom）と市役所会議室のサテライト会場で、講座の様態を上映しての実施。市民安全課相談係の皆さんの全面バックアップで、オンラインが苦手な世代が多い民生委員の方向けに、コロナ感染対策を、十分に考慮した会場と、オンライン講座に接続、大スクリーンへの投影などをしていただき実現することが出来た。

11/20(土)21時から22時30分

オンライン（Zoom）のみでの実施。オンラインならではの、子育て世代がひと段落する、遅めの時間を設定。この会だけで21アクセスの参加者あり。

※教職員ワークショップについては、本来1日～2日かけてじっくり学ぶものを、2時間の中に凝縮したので、受講いただいた先生方には、ハードな講義だったと思う。内容については、学校・学級運営に役立つ、また子ども達のサインを受け止めたり、虐待の発見に先生方の知識や意識が必要なことを盛り込んだりしたことを、アンケートからも、しっかり受け止めていただいたことが伺える。

※一般向けのおとなワークショップは、私たちが普段、学校単位の保護者向けに実施してるCAPプログラムおとなワークショップに沿ってお届けした。わかりやすくをモットーに1年以上改善を続けた講座内容の完成度は、私たちが自負するところである。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	市民安全課	教育委員会
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

一番の課題は、周知の難しさだと感じた。チラシなどの配布も力を入れたが、「誰かのこと」としてとらえられてしまうと、なかなか参加していただけないのだろう。教職員の皆さんへの周知方法は、改善の余地があったと反省した。期間が短かったことが一番の理由であるが、後日、「知らなかった」と複数の先生から伺った。前日に「今知ったのですが参加できますか」とお問い合わせいただき、それはそれで有り難いことだったので、慌てて私たちのメンバーがテキストを持参した学校もあった。

また、CAPプログラムの認知度の低さから、より多くのかたの参加につながらなかった部分も大きいのではと推察する。今回の活動が、CAPプログラムというものがあって「子ども達を暴力から守るために周囲の

おとな、社会がすべきことを、たった 1～2 時間で知ることが出来る」ということが、広がるきっかけになってくれればと思う。本事業の中で、小中学校の児童生徒全員へのチラシ配布が出来たことは、その第一歩になったと思う。

今後は、本来の CAP プログラムの目的である「おとなワークショップ」後の「子どもワークショップ」を学校単位でお届けすることが実現できるよう働きかけていきたい。どのような形で私たちが講座を届けている川崎市や武蔵野市の仕組みなどの情報も提供できるので、青梅市と一緒に取り組んでいけることを切に願う。

13 その他

当初オンライン配信だけのつもりが、協働担当課の市民安全課の全面的な協力のおかげで、コロナ対策に十分配慮した実会場を開設することが出来た。その熱意を受けて、私たちの方も、遅い時間の地域向け講座を 1 回増やして、計 4 回のおとなワークショップとなった。また、周知活動においても、福祉総務課のご協力で民生委員さんに直接伝えるなど、アイデアや機会をいただき、私たちだけでは出来ないところで、本当に助けていただいた。各課の横のつながりを目の当たりにして、「協働」面白さを体感できた。教育委員会指導室の先生方にも、副校長会や、資料の配布など、お忙しい中、いろいろご対応いただき有り難かった。ご協力いただいた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げたい。